

<図書紹介>

『子どもの誇りに灯をともし

—誰もが探究して学びあうクラフトマンシップの文化をつくる—

ロン・バーガー 著／塚越悦子 解説／藤原さと 解説 2023 年 英治出版

立命館大学大学院教職研究科 2 年次生 竹中 楓月

アメリカ・カリフォルニア州のサンディエゴにある公立校「ハイ・テック・ハイ」は、クラスやチームで作品を作り上げ、子ども主体のプロジェクト型学習 (PBL) が行われている学校として世界中の教育従事者から注目を浴びている。教科書や成績表はなく、テストなどの定期的な試験もない。それにもかかわらず、生徒の学力は州で実施が定められている統一学力テストでは平均を上回り、四年制大学進学率は 9 割を超える。

本書は、ハイ・テック・ハイの教育思想に大きな影響を与え、PBL などの進歩的な学びを推進するアメリカの教育者のバイブルとして 20 年読み継がれてきた。著者のロン・バーガー氏は、公立学校の教師を 25 年以上勤める傍ら、週末は大工として働いていたユニークな経歴を持つ。また、優れた教師に与えられる賞を受賞し、ハーバード大学教育学大学院では、生徒の作品の質の向上に関する授業を受け持つなど、40 年以上にわたり教員育成に携わってきた。この経験の中で教師として関わった子どもたちや学校の様子が物語のように生き生きと綴られている。

本書のキーワードは「クラフトマンシップ」だ。クラフトマン (職人) とは、誠実さと知識を兼ね備え、自分の仕事に誇りを持って一心に取り組む人の姿だ。その文化を学校全体で共有すると、生徒はより質の良

い作品をつくろうと真剣になり、その過程で内面から自分を変えていく。課題を提出したら終わりではなく、仲間と批評し合い、何度も草案をつくり改良を重ね、より「美しい作品」を目指す。そうした授業が深い学びにつながり、自分なりの美意識や評価基準を原動力にして自ら学ぶようになるという。

本書ではその手法を 3 つの「工具箱」に分類して紹介している。1 つ目は「学校にエクセレンスの文化をつくる」ための手法だ。「エクセレンス」は、学業面、芸術面、個人の人格にも及ぶ。誠実さや責任感、勤勉さに価値を置く子どもを育てるために、その模範となる学校文化を構築するヒントが示される。2 つ目は「エクセレンスを追求する学び方」だ。生徒の自尊心を高めるのは教師の褒め言葉ではなく、作品をつくり上げる過程であると言う。3 つ目では「エクセレンスを教える」手法が紹介され、著者は教員養成制度に、教える技術を指導しサポートする仕組みが不足していると指摘している。今の日本の教育課題にリンクする部分も多い本書は、「探究」を通じた生徒の主体性や可能性を引き出す学校づくりに関心のある教師必読の一冊だ。

